

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社ひとみ座
公演団体名	人形劇団ひとみ座

内容
<p>○全体の流れ</p> <p>まず、児童生徒が「江戸時代に住んでいた人」というキーワードから、各人の発想で人形を製作します。本公演ではその人形を遣って出演者と共演します。40名程度の参加者が理想的ですが、それ以上の参加も可能です。</p> <p>事前に人形の材料・見本・作り方のテキストなどを配布、ワークショップ当日までに人形を作ってください。(夏休み前のワークショップ実施校は、ワークショップ当日は見本人形を遣い、人形は本公演までに作ってください)。人形はとてもシンプルな棒遣いで、児童生徒が容易に扱うことができます。</p> <p>演じる役柄は、「実施校地域に住む江戸の人々」です。劇中、弥次さん喜多さんは実施校地域を訪れることになり、そこで児童生徒の演じる住民から「ご当地クイズ」を出されます。二人はことごとくクイズに間違えますので、住民がクイズの答えと解説を発表します。</p> <p>ワークショップでは、人形を遣い演じる体験に加えて、ご当地クイズを児童生徒全員で考えて作り出していきます。</p>
<p>○具体的な実施内容</p> <p>①生徒が自分で製作した人形を紹介します。同時に講師が各人形の点検や補修を行います。(夏休み前のワークショップ実施校は、この項目を省略します。代わりに、人形の作り方の解説を行います)。</p> <p>②生徒が遣う人形の操作方法などを指導します。</p> <p>③講師が児童や先生からアイデアを募りながら、地元の特色を挙げていきます。次にその中から面白いものを選び、他所から旅をして来る弥次さんと喜多さんへのクイズを考えて、その答えと解説を作ります。</p> <p>④セリフを児童に割り振り、共演場面の練習をします。</p>
<p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none">・行動範囲の狭い児童は、地元と他地域を比較する機会に恵まれないため、地元の歴史や文化を敢えて魅力として感じる機会は少ないものです。しかし、お祭りなどの地域の伝統行事・特産品・自然風土などに、児童は意識せずとも触れながら生活をしています。本事業の実施により、児童が地元の魅力を再発見する契機を作り出していきます。・人形劇は、美術要素と演劇要素を組み合わせた表現形態です。どちらも「表現」の重要な方法で、本事業では児童に両要素の体験をしていただきます。・演劇表現のワークショップにより、実生活においても必要なコミュニケーション手段や自己表現の方法を体験して、その能力を高めます。

タイムスケジュール（標準）

[ワークショップ開始時間 10 時 30 分の場合(搬出入条件や学校希望により変動あり)]

搬入・簡易な打ち合わせ 10 時 00 分～10 時 30 分

基礎人形操作・共演指導(踊り) 10 時 30 分～11 時 15 分

休憩 11 時 15 分～11 時 25 分

ご当地クイズ考案・共演指導(芝居) 11 時 25 分～12 時 10 分

人形補修・返却(講師中心の作業) 12 時 10 分～12 時 30 分

撤去・退出 12 時 30 分～13 時 00 分

派遣者数

主指導者・補助者を合わせて 6 名です。

学校における事前指導

ワークショップの前に、1 人につき 1 体の人形を製作します。主にその過程で事前指導をお願いしています(各家庭の課題としても完成できるよう、わかりやすい作り方マニュアルなども準備しています)。

ワークショップ実施後、児童生徒の考えたご当地クイズを反映させた上演台本が学校に郵送されます。それを基に、ワークショップで練習をした内容を児童生徒に定着させる指導をお願いしています。

ワークショップ実施前にひとみ座担当者が各校個別訪問を行い、全体の流れや楽しく人形を製作する方法などを説明、学校と意見交換をして、その成果を基に事前事後の指導を実施していただきます。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社ひとみ座
公演団体名	人形劇団ひとみ座

演目
大江戸人形喜劇「弥次さん喜多さんトンちんカン珍道中」 公演時間 100分(10分休憩含む) 原案／十返舎一九「東海道中膝栗毛」 脚本／佃典彦(劇団B級遊撃隊) 演出／山本コーゾー 人形美術／伊東亮 舞台美術／田坂晴男・本川東洋子 音楽／やなせけいこ 音響／田辺正晴 照明・制作／石川哲次

派遣者数
出演者 9名 スタッフ 1名 合計 10名

タイムスケジュール(標準)
[公演開始時間 13時30分の場合(搬出入条件や学校希望により変動あり)] 搬入・仕込み 9時00分～11時30分 リハーサル(主に4校時) 11時30分～12時10分 本公演(主に5・6校時) 13時30分～15時10分 記念撮影会など 15時10分～15時30分 撤去・搬出 15時30分～17時30分

実施校への協力依頼人員
特にありません。

演目解説

本作は「弥次さん喜多さん」で知られる、江戸時代に書かれた『東海道中膝栗毛』の人形劇作品です。映画や舞台など様々なジャンルで知られる二人の冒険譚を、小学生対象の人形劇作品として、ここまで累計 600 ステージの上演を重ねてきました。

～二人の楽しい珍道中を通して 生きることの素晴らしさを伝える～

原案の『東海道中膝栗毛』は、旅行を題材にした大江戸コメディです。当時は、街道や宿場町が整備され、庶民の間にも徒歩旅行が広まり始めた時代でした。本作のテーマであり、今も旅行の定番として生き続ける「お伊勢参り」がブームとなったことは、戦国時代の後に訪れた天下泰平の世で、庶民が「明日生きていられるだろうか」から「明日をどうやって豊かに生きよう」と考えられるようになった証でもありました。

そんな世の中だからこそ、弥次さんと喜多さんは幾度となく大失態を演じながらも、気にせず元気に旅を続けることが出来ます。今日の失敗より明日の成功を素直に思い描ける主人公達の物語を通して、たった一度の失敗に折れてしまいがちな現代の子供達に、生きることの素晴らしさを伝えていきます。

～庶民の文化『伝統芸能』に触れながら 自分の住む地域の魅力を再発見する～

歌舞伎・講談・お囃子など、日本には全国各地に様々な形で伝統芸能が生き続けています。今の児童にとって堅苦しいと捉えられがちなそれらも、当時を生きた人々にとっては身近な文化でした。そしてそれらの芸能は、たくさんの人が集まる場所で行われる、地域の人と人をつなぐコミュニケーションの潤滑油のような役割を果たしていました。だからこそ各地域の特色が伝統芸能には強く表れていて、一人の世界で遊びが完結してしまうスマホやゲームにはない魅力が溢れています。

本作には、様々な伝統芸能のパロディーが登場します。弥次さん喜多さんの愉快的旅路を彩るたくさんの魅力的な芸能を通して、児童がこの国の文化芸術の礎である伝統芸能を気軽に楽しむと同時に、自分の住んでいる地域の芸能や歴史を再発見する機会を作り出していきます。

<あらすじ>

○弥次さん喜多さんは西へ向かう

江戸に住む弥次さんと喜多さんは、まんじゅうの大食い大会で起こした大失敗で、江戸を逃げるように離れることになる。それでも逃げるだけではつまらないと、当時大流行していたお伊勢参りをするために、西へ向かって徒歩旅行に出る。

○二人のトンチンカンな珍道中

小田原で五右衛門風呂の入りがわからず下駄を履いたまま入浴して浴槽を壊したり、大井川を自力で渡ろうとして大迷惑をかけた、台詞も覚えず歌舞伎の興行に出演したりと、二人の行く先々では必ず大騒動が起こるが、二人はその度にピンチを切り抜けていく。

○旅路で出来た仲間とお伊勢参りへ

そんな中、夢敗れて故郷に帰ろうとする力士や、全国を行脚する旅一座、二人を執拗に追い回す役人など、二人には旅で出会った仲間が出来る。仲間達の手を借りながら、やがて辿り着いた伊勢神宮では、全員で旅の成功を祝う。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

実施校地域を舞台とする「ご当地シーン」が児童の共演する場面です。

児童は「ご当地に住む江戸時代の人々」の役を人形を遣って演じます。ご当地の特色(芸能・お祭り・歴史・名産・自然など)について、児童は弥次さん喜多さんに、次々とクイズ形式で尋ねていきます。他所から来た弥次さんと喜多さんは答えを間違えてしまいますので、児童がその解説をしていきます。

このクイズや答えは、ワークショップを通して各校毎に完全にオリジナルの内容を作っていきます。児童と先生と講師で「地域の特長」について知恵を出し合い、そこから生まれた台本を使って共演場面を作り上げていきます。

ストーリー本編のテーマに即した題材で、二幕冒頭部分(休憩あけ)に出演します。

三味線や笛や太鼓の生演奏をバックに、人形や踊りなど多彩な表現を組み合わせることにより、児童各人の得意分野を活かしながらスムーズに参加できるように工夫をしています。

児童生徒とのふれあい

公演終了後の質問コーナー、児童生徒の感想発表などを実施することにより、本物の舞台芸術を身近に感じてもらいます。学校からの要望があれば、交流給食などにも積極的に対応していきます。